

令和3年3月19日  
消 防 庁

## 「令和2年度 救急業務のあり方に関する検討会 報告書」の公表

近年の救急出動件数の増加に加え、高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行や我が国での感染患者の増加、環境や生活様式の変化等を背景として、救急需要は多様化しています。これらの状況を踏まえ、いかにして救急業務を安定的かつ持続的に提供するかは、救急業務に係る主要な課題となっています。こうした課題に対応するため、「救急業務の円滑な実施と質の向上」、「救急車の適正利用の推進」等を目的として、「救急業務のあり方に関する検討会」を開催しました。

このたび、検討結果を報告書として取りまとめましたので公表します。

## ○ 資料の入手方法

- ・ 検討結果の概要は、別添1のとおりです。
- ・ 報告書の全文は、[消防庁ホームページ](#)に掲載します。

(URL: [https://www.fdma.go.jp/singi\\_kento/kento/post-57.html](https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/post-57.html))



【連絡先】 消防庁救急企画室

担当：伊藤理事官・若味課長補佐・小塩救急専門官

電話：03-5253-7529（直通）

委員名簿

（五十音順） ◎印は座長

浅利 靖	北里大学医学部救命救急医学主任教授	長島 公之	日本医師会常任理事
◎有賀 徹	独立行政法人労働者健康安全機構理事長	野村 さちい	一般社団法人「つながるひろがる子どもの救急」代表
岩田 太	神奈川大学法学部教授	坂 行正	埼玉県保健医療部医療整備課長
岡本 透	東京消防庁救急部長	間藤 卓	自治医科大学救急医学講座教授
萩野 章	山形県防災くらし安心部消防救急課長	向井 隆之	高槻市消防本部救急課長
坂本 哲也	帝京大学医学部救急医学講座主任教授	山口 芳裕	杏林大学医学部救急医学教授
島崎 修次	国士舘大学防災・救急救助総合研究所長	山本 保博	一般財団法人 救急振興財団会長
嶋津 岳士	大阪大学大学院医学系研究科救急医学教授	行岡 哲男	一般財団法人 日本救急医療財団理事
高橋 正裕	仙台市消防局警防部救急担当部長	横田 順一朗	地方独立行政法人 堺市立病院機構副理事長
田邊 晴山	救急救命東京研修所教授	横田 裕行	日本体育大学大学院保健医療学研究科長・教授
（オブザーバー）			
鈴木 健彦	厚生労働省医政局地域医療計画課長		

回数	開催日	主な議題
第1回	令和2年5月21日（木）	・今年度の検討の進め方
第2回	令和2年11月9日（月）	・検討課題の検討状況（中間報告）
第3回	令和3年2月22日（月）	・救急業務のあり方に関する検討会報告書（案）

令和2年度 救急業務のあり方に関する検討会報告書（概要）

救急業務の円滑な実施と質の向上

1. 救急業務におけるメディカルコントロール体制（以下「MC体制」という）のあり方

- MC体制の中心的役割の課題の解決策の検討
  - ・常時性・迅速性・適切性を満たすオンラインMC体制、実践経験を通じた教育プロセス、事後検証の更なる活用等の検討を行った。
- MC体制のあり方の検討
  - ・課題の解決策の検討を踏まえ、地域及び都道府県MC体制が今後さらに取り組むべきことを整理した。さらに、MC体制の評価指標を用いた継続的な体制構築及び改善の取組を含め、MC体制のあり方について一定の方向性を示した。

2. 救急活動におけるICT技術導入

- 救急隊員の作業の簡素化という観点に着目したICT等の先進的な技術の導入
  - ・消防本部での実証実験を通じ、先進的な技術（OCR、RPA等）の効果や課題、留意点等を取りまとめた。
- 救急業務の高度化に向けた先進的な技術等の活用の可能性

3. 蘇生ガイドライン改訂への対応

- 対応方針の整理
  - ・新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、JRC蘇生ガイドライン作成委員会による「JRC蘇生ガイドライン」の公開が延期されたことを受けて、今年度は、一般市民や救急隊員が行う心肺蘇生法の見直しに向けた今後の対応方針を整理した。

救急車の適正利用の推進

4. 救急安心センター事業（#7119）の全国展開に向けた検討

- 各地域における救急安心センター事業の必要性、事業の実施効果の算定及び各地域における実施体制づくりについて
  - ・#7119の全国展開を目指し、「#7119の全国展開に向けた検討部会」を設置し、検討部会報告書を取りまとめた。
- 実施団体の事業検証体制の現状について
  - ・#7119担当者及び普及促進アドバイザー連絡会を活用し、事業を運営する実施団体の視点を踏まえ検討した。

その他（報告事項）

5. 救急隊の感染防止対策

- 救急隊の感染防止対策マニュアル（Ver.2.0）の策定
  - ・感染防止対策の更なる体制整備、充実を図るため、最新の医学的知見及び新型コロナウイルス感染症患者への対応の経験を踏まえたマニュアルの策定を行った。

6. 救急業務に関するフォローアップ

- 都道府県の担当部局とともに消防本部を訪問し、現状及び課題の認識を共有、必要な助言を実施したほか、先進的な取組の把握を行った。